

はい！元気です



おおさき認知症部会

おおさき認知症部会は、平成24年6月に発足し、2か月に1回町保健センターで話し合いの場を設け、介護者、認知症サポーター、民生委員、町職員などで構成されています。

町内で在宅生活を送る認知症高齢者や支える家族の日常はご苦労が多いようです。認知症のことは知っていても、具体的で適切な方法が分からず、悩み苦しんでいます。家族だけではなく、周囲も認知症のことが分からないために誤解が生じ、生活に困難さが起きます。これは町内だけでなく、全国的な現象であって考慮すべき問題です。

私たちの生活は多くの人の協力と思いやりで成り立っています。家族だけではなく、周囲の方々も支え手です。認知症の方やその家族にとって、できる限り住み慣れた場所で過ごせるよう、地域の方々とともに一緒に考え、町ぐるみで支える仕組みを作っていきます。



会長

竹元 康博

こんにちは。大崎町地域包括支援センターの竹元です。今回、当センターで主催している『おおさき認知症部会』について紹介します。

この会は『大崎町を認知症の人やその家族が自分らしく住めるまちにする』ことを目標とし、まちづくりの視点で活動していますので、部会の活動のことで興味をもたれた方はお気軽にご連絡ください。

(☎ 471-7828)



ふるさとの風景を激写せよ！

特命！カメラマン

No. 60 住民環境課環境対策係 吉原 ^{そう} 聡

環境対策に関することを担当しています。

～佐土原の『地蔵どん』～

佐土原集落の共同墓地にたたずむこの地蔵は、数世代に渡り男子を授かることができなかった一家が『男子が生まれるように』という願いを込めて建てられたと云われており、親しみと敬意を込めて“地蔵どん”と呼ばれています。

共同墓地ができる前は、4畳程のかやぶき屋根の小屋の中に建っていたそうで、当時の人々は農繁期になると、自分の子ども達を小屋の中の“地蔵どん”に預けて農作業に出かけたそうです。ちなみに、私の父もその小屋の中で遊んだ経験があるそうです。

そんな“地蔵どん”にはよだれかけが2枚かけられており、今でも隣の灯籠の中には賽銭が置かれています。

